

国際シンポジウム (同時通訳あり)

ドイツの市民社会に見るスポーツ・言語・政治

提案趣旨

2022年FIFAワールドカップ・カタール大会では、人権問題がクローズアップされたが、なかでもドイツでの人権問題への関心は高かった。スポーツと政治の関係についての日独の意識の違いは、市民社会や公共性のあり方とも深く結びついている。

本シンポジウムでは、コロナ下での政治動向も交えながら、スポーツと政治の結びつきについて、市民社会と言語の視点から議論する。

■開催日:2023年**2月26日(日)** ■時間:15時~17時20分

■場所:明治大学駿河台キャンパス・リバティタワー7階1075教室 (ハイブリッド)

参加申込み

釜崎太 (明治大学) までメール (kamasaki@meiji.ac.jp) で事前申込みして下さい。メールにて氏名・所属・連絡先メールアドレス・参加形態 (対面 or オンライン) をご連絡下さい。使用言語は日本語と英語。同時通訳がつきますが、対面での**同時通訳は申込先着 50名まで**となります。オンライン参加は英語と日本語の音声切り替え可能です。対面での参加と海外からのオンラインアクセスは無料。日本国内からのオンラインアクセスは参加費 1,000円を事前振り込みして頂きます。詳しくは釜崎 (上記アドレス) までお問い合わせ下さい。多数の方の参加をお待ち致しております。

■司 会:黒田勇 (関西大学 / 社会学)・田中ひかる (明治大学 / 社会思想)

シンポジスト



ユルゲン・ミッターク
(ケルンスポーツ大学 /
スポーツ政治学)
政治参加の可能性と不可能性—
ドイツにおけるプロサッカーの意思
決定過程への市民社会の関与—



釜崎 太
(明治大学 / スポーツ思想)

ドイツの市民社会とサッカー—人
権問題に見る非営利法人の役割と
歴史的背景—



宮本 真也
(明治大学 / 社会哲学)
メディア時代の政治的公共圏の
危機



グンター・ゲバウア
(ベルリン自由大学 / 哲学)

ドイツ社会における政治の言説と
スポーツの言語